



NPO法人

フキックス・コルプス

NPO法人フキックス・コルプスは葺合高校の教師及び卒業生により設立され、グローバルな人材育成を目的として活動しています。今回のFUKIX NEWS 第15号では、2022年に葺合高校を卒業し、早稲田大学国際教養学部に進学された茨木貫嗣さんに、在学中から現在に至るまで、いろいろなお話を語っていただきました。

INTERVIEWER: 青山学院大学 文学部 英米文学科 廣川和海(国際科22回生2025年卒業)

### ・現在の状況と今後の予定

就職活動を終え、今は残りの学校生活を楽しみながら、社会人としてのスタートに向けた準備を進めています。具体的には、資格の勉強やニュースに目を通す習慣を続けています。学生生活と社会人生活では、生活リズムや考え方が大きく変わるので、少しずつ自分の生活を社会人モードにならしていけるように意識しています。

### ・進学先として、早稲田大学を選んだ理由

高校2年生の時にコロナが流行し「自分が本当にしたいことって何」と自分の将来について考える時間が増え、疑問を整理していくうちに「上京してみたい」「早稲田で挑戦したい」という気持ちが生まれました。また、国際科での活動を通して、「人と関わること」や「海外の学生や先生と関係を築く楽しさ」を実感し、大学では留学したいという気持ちが強くありました。そのような中で、早稲田大学の国際教養学部は留学プログラムの種類が豊富で、サポートも手厚いと知り、とても魅力を感じました。そして、最後の決め手となったのは、尊敬しているクラスメイトの存在です。一人は、自分の「好き」や「やってみたい」という気持ちにとっても素直で、その情熱を全力で注いでいる友達。もう一人は、勉強でも人間性でもハッとさせられる努力を惜しまない友達。そんな尊敬する友人が東京の大学を目指していることを知り、自分も「負けていけない」「挑戦したい」と強く思い、志願しました。

### ・大学で学んだこと

もともと「人とかかわること」「お互いの価値観や想いを語り合うこと」が好きで、哲学や言語学など人文系の分野に関心を持っていました。そして、国際教養学部では、3回生の秋学期からゼミに所属するかどうかを選択でき、現在は国際関係学のゼミに所属し、「日本と海外のマイノリティ」というテーマで、卒業論文に取り組んでいます。社会の中で多様性がどのように受け入れられているのかを比較しながら、自分なりの視点で考察しています。

### ・大学で力を入れている活動

「大学生だからできること」に力を入れていました。最も鮮明に記憶に残っているのは、アメリカ・カリフォルニアへの留学です。海外の大学で現地の学生と一年間一緒に過ごせたのは、とても貴重な経験になりました。そして、留学後、3回生から英語塾でのアルバイトや留学アドバイザーとして学生団体での活動も始めました。自分の立場や環境を最大限活かし、興味のあることにとことん挑戦できたと思います。



### 「大抵のことでは、失敗しても死なない」

#### ・留学を通して学んだこと

一年間、カリフォルニア州立大学フラートン校に留学しました。幼少期に海外で過ごした経験もあり、リーディングやライティングなどアカデミックなスキルは日本でも向上できると感じていましたが、リスニングやスピーキングといった「人とかかわる土台」となる力は、日本で過ごすほど少しずつ衰えていきました。だからこそ「英語を使わざるを得ない環境」に身を置き、もう一度そのような力を鍛えなおすため、英語圏の大学に留学したいという思いが強くありました。なかでも、カリフォルニア州立大学フラートン校を選んだのは、カリフォルニアがアメリカの中でも特に多様性に富んでおり、いろいろな人と交流できる環境だと感じたからです。実際に多様な価値観に触れ、刺激を受ける中で自分の視野を広げることができました。



一年間アメリカで過ごす経験は、最終的には本当に楽しいものですが、不安も多かったです。異国の地で一人で過ごすだけでもストレスに感じるのに、空港で長時間拘束されたり、近くで発砲事件が起きたりと予想外な出来事もありました。それでも一年間を乗り越える中で「まずは行動してみる大切さ」と「失敗しても大丈夫」というメンタルを学びました。「悩んでいる時間はもったいないし、挑戦して失敗しても経験になる」と考えられるようになったことが大きな財産になりました。

### ・大学生活や留学などで葺合での経験が生かされたこと

「英語力」と「あの忙しさ」の経験が活かさたと感じます。大学では、通常授業もほとんど英語で行われ、留学もあったため、国際科での三年間で英語の土台を作り直せたことはラッキーだったと思います。また、「あの忙しさ」のおかげで大学の課題やプレゼンでほとんど苦労しませんでした。国際科で毎日の授業に加えて、テスト期間に重なるエッセーやプレゼンテーションを乗り越えた経験があるからこそ、大学の課題や発表も落ち着いて取り組むことができました。パソコン操作に慣れていたことも大きな助けになりました。

### 目標は「世界中を飛び回りながら、陰ながら世界を支える商社マン」

#### ・就職先に総合商社を選んだ理由

大きく分けて「海外で働けるチャンス」と「与える影響の大きさ」があるからです。高校生のころから日本だけで一生を過ごす人生は勿体無いと考えており、その思いは留学を通してより強くなりました。日本以外で生活した人と関わる中で、自分が見てこなかった世界に触れることは非常に楽しいと感じ、それを仕事でも実現できる環境として商社が選択肢に入りました。また、商社はプロジェクトの規模が大きく、扱う分野も広いので社会や人々の生活に与える影響が非常に大きいと思います。「カップラーメンからロケットまで」と言われているように、仕事のスケールとバリエーションの広さに魅力を感じました。世界中の人々の生活を支える何かに携われることはとてもワクワクすることだと思います。

#### ・将来のビジョン

目標は憧れの商社マンになることです。カップラーメンでもロケットでもどんな仕事でも全力で取り組みたいと思っています。自分が精一杯仕事に向き合うことは、評価してくれた会社やこれまで自分を支えてくれた家族や周りの人たちへの恩返しにもなると考えています。人生を通して、今まで自分が受け取ってきたものを、次は自分がほかの人に還元できるように努力し続けられる人になりたいです。



### 葺合で身につけた「価値観」は宝物

#### ・葺合で学んでよかったと思えること

特に「環境の大切さ」を学びました。自分が関わる人や身を置く場所を自分で選び、見極めることの重要性を実感しました。もし国際科に進学していなかったら、諦めていた資格勉強を再開することも早稲田大学に進学することも叶わなかったと思います。「良い刺激を与えてくれる人がいる環境」「自分らしくいられる場所」は想像以上に大切だと感じました。中学の頃は帰国子女として少し浮いてしまうこともありましたが、国際科では似たような海外経験や悩みを持つ友達が多く、「尊敬できる仲間」や「負けたくない」と思える存在にたくさん出会えました。そうした環境が自分を成長させてくれたと思います。そして、早稲田大学国際教養学部に進学し、関西を離れて新しい環境に飛び込んだことで周りの学生のレベルの高さや成長できるチャンスを肌で感じました。そのような経験があったからこそ、今の志望業界への就職も実現できたと思います。

#### ・葺合で頑張ったこと

もともと、好きなことにはとことん打ち込めるけれど、苦手なことは後回しにしがちで、中学時代は勉強が得意ではなかったのですが、高校に入学してからは勉強にも力を入れるようにしました。苦手な科目でいい点数が取れた時は嬉しくて、自信やモチベーションにつながっていきました。波はありましたが、最後まで頑張ったからこそ第一志望の大学に合格できました。

一番の思い出は、男子バレーボール部に所属したことです。「新しいことに挑戦してみたい」という気持ちから高校からバレーボールを始めました。気づけば夢中になっていて、初心者の中では一番早くレギュラー入りし、神戸市リーグの一部リーグ昇格にも貢献できたと思います。そして何より、部員と一緒に過ごした時間は本当にかげがえがないもので、チームで同じ目標に向かって努力した経験は、大きな財産となりました。

### 目の前のことに全力で取り組み、感謝の気持ちを忘れない

#### Don't take anything for granted

#### ・在校生へのメッセージ

どんなことに挑戦するにしても、まずは目の前のことに自分なりに精一杯取り組んでみてください。何かに100%を注ぐのは簡単ではないですが、成功しても失敗しても必ず経験値になり、何かに繋がります。自分の場合、好きな科目を頑張って勉強したことが早稲田大学への進学に繋がり、バレーボールに打ち込んだことが大学や留学先での多くのつながりを生み、志望業界への就職にも結び付けました。

そして、感謝の気持ちを忘れないことも大切にしてください。毎日学び、生活できているのも多くの人の支えがあってこそで、決して当たり前ではないと思います。小さなことでも感謝の気持ちを持ち続ける人になってほしいです。応援しています。